

第2回 常滑市立図書館基本構想策定委員会 議事要旨

日 時：令和7年9月25日（木）
14 時 00 分～16 時 30 分
場 所：常滑市役所1階 会議室B

1 開 会

(1) 委員紹介

- ・図書館市民ワークショップの代表として赤尾恵子委員と久田博司委員が委員に選任されたことを報告

2 議 事

(1) 第1回の議事要旨について

(豊田雄二郎 委員)

- ・第1回委員会の開催からすでに3カ月が経っている。その議事録の公開がいまだされていないのは遅すぎる。策定委員会の中で議事として行うのではなく、事前にメールなどで確認する形にはできないか。その方が早くホームページで議事要旨を公開できる。

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局は、次回より、開催前にメールなどで各委員に議事要旨の確認をしてください。

(2) 第1回からの修正点について

- ・事務局より 資料3 ・ 資料4 に基づき、第1回委員会での指摘項などにより修正した箇所を説明（修正箇所については、網掛け・下線で表示）

第2章 常滑市のすがた

3 人口分布・人口推移

(4) 地域間流動

(山際史子 委員)

- ・通勤者の流入超過数(3,750人)と通学者の流出超過数(1,080人)の数字が図表2-10の表から読み取れるようにしていただきたい。また図の凡例が分かりづらいため修正をお願いしたい。

(事務局)

- ・表の中で記載を省略しているものもあるため、図表 2-10 から本文の数字が読み取りやすいよう、凡例とともに修正する。

(豊田雄二郎 委員)

- ・常滑市では、昼間人口が多いことが特徴であるとして総括されてしまっているが、経済的な実態を考えたとき、空港で働いている人は除いた表現をするべきではないか。

(事務局)

- ・流出者、流入者だけを見ると、昼間人口が多いが、流入者から空港で勤務する者を除くと違う実態が見えてくる点を付け加えさせていただく。

第4章 図書館の現状

1 施設の概要

(2)南陵分館

(山際史子 委員)

- ・図書室と児童書スペースで 400m² と記載されていると思うが、学習室も含まれていると捉える方もいると思う。

(事務局)

- ・室面積について、「e スペースを除く」などの表現を付け加える。

4 図書館の利用状況

(2)利用登録者数と人口1人当たり個人貸出冊数の推移

(山際史子 委員)

- ・利用登録者数と利用登録者数(実人数)という単語が出てくるため、どの図表がどちらのことを言っているのかわかりにくい。

(事務局)

- ・実利用者数となっているのは、図表 4-14 のみとなる。ご指摘の通り混同してしまうため、表記を統一して修正する。

(山田朝夫 委員長)

- ・令和6年度の実利用者数が 5,211 人ということだが、登録だけして実際に図書館を利用していない人の割合はどれ位となるのか。

(事務局)

- ・令和6年度年報を見ていただくと令和6年度の登録者数が23,401人のため、7割以上の方が使っていないということになる。

5 分散移転による影響

(山際史子 委員)

- ・図表4-18と図表4-19について、令和6年度は合計冊数が一致するが平成30年度と令和4年度は一致していないのはどうしてか。

(事務局)

- ・令和6年度は個人貸出冊数のみの数値であるため一致しているが、平成30年度と令和4年度には団体貸出の冊数が入っている。

(山田朝夫 委員長)

- ・図書館年報など過去の統計がそうなっているのかもしれないが、もし、個人貸出冊数の数値のみ分かるようであれば、修正してください。

(久田博司 委員)

- ・各年度の団体貸出冊数が減っているということになるが、団体貸出が減っているのはどうしてか。

(中井孝幸 委員)

- ・貸出の際は、保育園などに図書館が届けているか。忙しくて取りに行けないので次第に足が遠のくということもあると思う。

(山際史子 委員)

- ・図書館として団体貸出を断ってはいない。また保育園などは先生が図書館取りに来る。大府市などもそうだと聞いている。

(豊田雄二郎 委員)

- ・配送するのにも人手と時間がかかるので、その分の予算がついていないのではないか。

(事務局)

- ・指定管理の委託費の中には含まれていない。

(山田朝夫 委員長)

- ・学校図書館と市立図書館がしっかりと連携しており、学校と行政がともに、配送することが重要だと考えているかどうかだと思う。
- ・団体貸出が減っている原因や実態を把握して、要望があって、対応した方が貸出冊数が増えるのであれば、検討することが大事だと思うので検討をお願いします。

6 読書に関する取組

(4) 保育園及び学校等連携事業

(山際史子 委員)

- ・小学校の職場体験は受け入れていないため、本文の記載を修正してください。

(山田朝夫 委員長)

- ・中学校には記載がないが職場体験を受け入れていないのか。

(土方宗広 副委員長)

- ・中学校については、職場体験の連携事業があることは、学校側では承知している。受け入れていないのではなく希望する学校がないのだと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局は、実績があるかどうかではなく、事業として用意されているかで記載を修正してください。

(3) 前提条件の整理について

- ・事務局より 資料 3 に基づき、今回追加で記載した事項について説明

第4章 図書館の現状

6 読書に関する取組

(1) ブックスタート事業

(赤尾恵子 委員)

- ・図書館の貸出数が下がっている中で、ブックスタート事業については、令和3年度と比べると令和6年度が増えている。何か要因や取組があるのか。

(事務局)

- ・ブックスタートはすべての子供に絵本を渡すことが目的のため100%としたいところ。常滑市では保健センターが行う1歳の健診の際に手渡ししており、この健診の参加率がだいたい80%程度。欠席された方には後日、保健師が訪問の際に本を持っていたり、絵本の引換券を郵送したりしている。
- ・令和3年度が低いのは、令和4年1月から事業を開始しているため人数が低い。

(山田朝夫 委員長)

- ・ブックスタート事業はこども図書室の利用率に繋がっているのか。

(事務局)

- ・ブックスタートを開始した年度のみ、色を変えた図書館の利用カー

ド申込書を渡しており、ブックスタートをきっかけにこども図書室を利用した人は一定数いるが具体的にどのくらい増えたかは調査していない。

(山田朝夫 委員長)

- ・ブックスタート事業は順調だが、こども図書室の利用率は下がっているが何が原因だと思うか。

(山際史子 委員)

- ・はじめはこども図書室を見ようとするたくさんの人が来たが、そういう人も減っている。現状が普段の利用数なのではないかと思う。

(中井孝幸 委員)

- ・こども図書室だけ分かれており、子供だけでは来れないので、親が次も来たいなと思わないと、子供を連れて来ない。
- ・子供の年齢が上がるにつれて図書館を利用することが少なくなるのはどこの図書館でも同じ。次の子育て世代が図書館に来るようになるのだが、今使っている人たちをどう継続させていくかというのがとても大事だと思う。

(平野小月 委員)

- ・こども図書室の利用が下がっているのは、飛香台地区の小学生が減っているためだと思う。現在は、中学生世代が一番多くなっているが、こども図書室は絵本が多く、中学生は学習室であったり、文庫本などが読みたいのではないか。

(5)朝読の実施

(6)ボランティア・図書館サポーター事業

(平野小月 委員)

- ・自分が実施している読み聞かせは、小学校の朝読の15分の時間を使って、保護者やOB、地域の方で行う。
- ・全ての学校で行えてはいないが、常滑西小学校などでは、クリスマスや七夕など季節のイベントとして、昼放課を利用して、学年ごとに集まって読み聞かせを行ったりもしている。

(井村美里 委員)

- ・中学校の世代では何かやっているのか。この年代で読書をする人が減ってきているので何かできないのかと考えることが多い。朝読はどのようにやられているのか。

(平野小月 委員)

- ・朝チャイムが鳴り、朝読の時間ですという放送が流れると、その15分の時間を使って、家から持って来た本や、学校図書館で借りた本など何でもいから本を読みましようという時間。
- ・一度だけ中学校での読み聞かせに取り組んでみたことがあるが、学

校側の事情などもあり続かなかった。

(中井明子 委員)

- ・他市町の中学校で絵本の読み聞かせを行っている所を見たことがある。体の大きな中学生が、机や椅子を後ろにずらして楽しそうに聞いていた。後から感想を聞くと、昔読んだことのある絵本を久しぶりに読んで、何かぐっとくるものがあったそう。
- ・読書は自分の好きな分野があると思うが、こういった機会がたまにあって、いつもと違う本に出会うというのは良いことだと思った。

(井村美里 委員)

- ・ワークショップの時に、会場に関連する本を選んで展示してくれていたように、図書館以外でも実施することがあるのか。

(山際史子 委員)

- ・ワークショップの時は特別で、普段は行っていない。

(7)園文庫

(中井孝幸 委員)

- ・園文庫というのを初めて聞いたが、市内の保育園に実際に本が置いてあるのか。市立と私立の保育園いずれもか。入れ替えや更新などは行っているものなのか。

(事務局)

- ・市立保育園のみ、市が購入した絵本がそれぞれ配置されている。
- ・図書館年報を見ていただくと、年間の園文庫の資料購入費として毎年55万円確保している。入れ替えはしていないが、少しずつ増えている。

(井村美里 委員)

- ・図書館以外で本に親しむ機会があるのはとても良いと思う。子育て世代が増えている中で、子供たちの目に、自然と本が触れるシーンが身近にあるのも素晴らしい。

(中井孝幸 委員)

- ・園文庫の取組はとても良い。これを50年も前から続けてきたことはとても素晴らしいことだと思う。
- ・通常、ブックスタートからこどもの図書館の利用までは間が開いてしまうのだが、常滑市は園文庫がその間を補っている。ブックスタートから園文庫、学校図書館、そして公共図書館と、子供が読書をする環境が繋がっていくのが理想である。
- ・たぶん古い本が置かれていると思うが、本の中身を入れ替えたり、本棚を少し新しくするなどするだけでも状況はよくなっていくのではないかと思う。

(平野小月 委員)

- ・子供が保育園だったころを振り返ると園文庫の本はあまり新しくはなかった記憶があるが、本を借りて帰ってくるのが楽しそうだった。

(山際史子 委員)

- ・図表 4-25 に記載されている園文庫の貸出冊数は図書館の貸出冊数には入っていない。初めて見た人がわかるよう注記してください。

第5章 他の自治体との比較

第1節 同規模自治体

(豊田雄二郎 委員)

- ・図表 5-1 で常滑の将来負担比率が際立っている。「－ (ハイフン)」の意味が分からない人もいると思うので注記してはどうか。

(事務局)

- ・「－ (ハイフン)」は将来負担比率がマイナスである市であるので、分かるよう記載する。

(山際史子 委員)

- ・図表 5-2 の人口 1,000 人当たりの年間受入冊数の自治体の数が少ないように思えるがどうしてか。また図表 5-1 に和歌山県岩出市がないのではないか。

(事務局)

- ・先方に聞くなど数字は持っているが、外には出していない数字とのことで、図表には記載していない。岩出市については図表から消えてしまっているため修正する。

(山際史子 委員)

- ・図表 5-3 について、望ましい基準は上位 10%であることを記載しておいてください。

(久田博司 委員)

- ・財政力指数、公債費負担比率、将来負担比率などが一般の人ではわかりにくいと思う。常滑はどういう状況なのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・確かにそのとおり。簡単に言うと、財政力指数は、自治体の財政力を表す数値で 1 であれば収支のバランスが取れているおり、1 を超える市は、自治体の収入だけで十分な住民サービスが提供でき、余裕があるということ。トヨタ系の会社がある三河の方や知多半島だと東海市・大府市が 1 を超えている。

- ・公債費比負担率というのは、借金の返済にどれだけ充ててなければならないかということで、将来負担比率とは自治体の財源をすべて返済に充てたとして何年で返済できるかというもの。常滑市は少し前まで 200% を超えていた時代があった。いつ財政再建団体になってもおかしくない状態。昭和 50 年代にボートレース事業からの収入がたくさんあり、身の丈に合わない施設の整備を行ってきたのが大きな原因。現在は、財政規律をきちんとしていたり、職員数を少なくしたりして 100% まで下がった。

(事務局)

- ・自治体の財政に詳しくない人でも分かるよう注記をつける。

第2節 知多半島の自治体

(豊田雄二郎 委員)

- ・図表 5-4 についても図表 5-1 と同じように人口順に変更しておいてください。

(山際史子 委員)

- ・図表 5-4 や第 1 節などどの時点のデータか分かるように年度をどこかに記載していただくと良いと思う。

(事務局)

- ・時点については令和 6 年度末時点のものとしている。記載がどこにもないので、注記をつけるようにする。

(山田朝夫 委員長)

- ・図表 5-4 を見ていただくと、東海市や大府市の財政力指数はとても高い。先日、知多市長選に関する記事が中日新聞で出ていたが、知多市自体財政力指数が 0.92 で悪くはないのだが、どうしても隣にある東海市や大府市の行政サービスと比べられてしまうので、とても大変だと書いてあった。常滑市も知多半島自体や近隣に裕福な自治体が多いので、同じ状況となっはいる。
- ・先ほども申したように、ボートレース事業が好調で、身の丈に合わない行政サービスを続けていた昭和 50 年頃の時代を知っている世代からすると、当時に慣れてしまっているようにも感じられる。

第6章 学校図書館の現状

(山際史子 委員)

- ・学校図書館で本をあまり読まない理由として、例えば、開いている時間が少ないとか、蔵書点検が行われておらず古い本しか並んでいな

いなど、そういった記述があった方が良いと思う。

(中井孝幸 委員)

- ・現在、学校図書館の利用についての調査をしているが、昼休みの開いている時間には、7割がグループで利用している。本を読むといよりは集まりたいというのが現状。
- ・本が無くなる心配もあるので、鍵がかかってはいるが、閲覧席を居場所として求めているし、図書館の利用は、子供から大人までずっと繋がっているのも、学校司書でなくても図書委員でも良いので、ずっと鍵が開いているのが理想だなと感じている。

(土方宗広 副委員長)

- ・学校によっては、昼放課や大放課はずっと空けている所もあるし、週に3・4日しか開いていない所もある。学校訪問の際に、図書館を見ることがあるが、空白の棚があり、予算の都合もあるかもしれないが、行きたいと思わせるような本がないのも現状ではないか。

(中井明子 委員)

- ・小学校の時に比べると中学生の時は利用が少なくなる。どうしても中学生になると圧倒的に忙しくなる。大放課などに部活の委員会があったり、勉強をしたりと。またグループで集まりたいという要望がある一方で、図書館は静かにするべきというイメージもあるので、違う場所で集まるということになってしまう。

第7章 図書館を取り巻く環境の変化

第1節 同規模自治体

1 人口構成の変化

(豊田雄二郎 委員)

- ・これから高齢化や過疎化が進んでいく中で、新しい図書館ができたはいいがどういう手段でそこまで行くのかも課題となる。
- ・公共交通網として、市の全域に電車が走っているわけでもなく、現在の公共バスもこの先どうなるかもわからない。どの章で取り上げるかは任せるが、交通手段についても加えていただきたいと思う。

(事務局)

- ・第7章または第9章のいずれかで取り上げるようにする。

(山際史子 委員)

- ・高齢者が市民協働の中心になることが当然のように読み取れてしまう。若い人の中にもやりたい人がいると思うので考えていただきたい。

(中井孝幸 委員)

- ・高齢者と若い人が一緒に取り組むことが理想である。若い人と高齢者では得意な分野が違うので協力し合ってやれると良いのではないかなと思う。協働よりは協力の方がよりニュアンスに近い気がする。

(山田朝夫 委員長)

- ・実際に活動する人は、運営者側に入っているのか、利用者側に入っているのかどのような意識だろうか。読み聞かせはどうか。

(平野小月 委員)

- ・自分たちは、利用者側だと思っている。場所と本を借りている感覚で協力の方が近い。

(豊田雄二郎 委員)

- ・可処分時間の件で、高齢者層と決めつけているような表現が気になる。実際に多いのは分かるが、バリバリと働いている高齢者もたくさんいる。この一文に象徴されるように、全体を通じて、何か決め付けるような表現はできるだけ避けた方がいい。

(事務局)

- ・高齢化の件で記載しているため、言い回しが決めつけになってしまっているのかもしれない。少し章立てや小見出しを考え直す。

2 コロナ禍による生活スタイルの変化

(井村美里 委員)

- ・本編には記載はないことにはなるが、WEB上の情報も図書館が扱う情報の中に入るのか。資料の収集という点では入ると思うが。

(中井孝幸 委員)

- ・引用がついているものやホームページのアドレスがついているものは情報にあたる。実際にレファレンスなどで紹介することもあるだろうし、県立図書館などレファレンス結果を蓄積している中にも入っている。SNSなどの投稿は扱う情報ではないのではないかな。ただしWEB上にあるどの情報が資料にあたるかは、それを判断できる専門の司書が必要であるし、更新などをどのように見ていくかも課題があると思う。司書のスキルに拠ることになる。

(井村美里 委員)

- ・これからの子供たちはWEBが中心になるので、今後のあり方を考えていく中で議論しても良いと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・マスコミ側も自分たちで情報を判断し、自分たちの責任でリテラシーをもって記事を作る。

3 国際化と多文化共生

(赤尾恵子 委員)

- ・常滑市でも外国の方を見かけることも多くなり、国際化が進むと思う。常滑市が東南アジアの国の方の割合が多いのは分かったが、本文に出てこない、例えばカンボジアはと疑問になってしまうので、何らか工夫していただきたい。

(久田博司 委員)

- ・図表 7-10 で常滑市の外国人登録者数が令和 6 年度で 2,052 人なので人口の 3 % 程度となるが、これは他の自治体に比べて多いのか。市として外国人への対応をどうしていこうと考えているのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・西三河などトヨタ系の工場がある自治体に比べれば少ない。常滑市も昔は少なかったが、最近は増加傾向にあり、ブラジルの方が多かったがベトナムの方が人数は逆転している。
- ・国籍については、市内の企業に左右されるので市として如何ともしがたいが、多くなりすぎて対応が後手に回る前に、常滑市行政としてどうすべきか考える時期に来ていると思う。
- ・今のところ長期に住むわけではない人も多い。第 9 章の中で、事務局として課題とはしているものの、図書館として積極的にターゲットにするかは正直わからない。あれもこれも手を出すわけにはいかないので、たくさんある課題の中で何を優先するか後程ご意見いただきたい。

(山際史子 委員)

- ・(2)多文化共生の下線部について、どのような意図で書いたのか。

(事務局)

- ・例えば学生が、図書館の本をきっかけに、外国の文化などに興味を持って留学でも旅行でも良いので、世界に飛び出すきっかけになってほしいという思いで書いた。

(豊田雄二郎 委員)

- ・「きっかけ作り」という内容と「多文化共生」という小見出しと齟齬があるから違和感があるのだと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・国際空港をもつ常滑市として内容はおかしくないのか、事務局で小見出しを考えてください。

4 障がい者等の読書サービス

(山際史子 委員)

- ・認知症の高齢者が障がい者だと思われてしまわないか。

(山田朝夫 委員長)

- ・障がい者「等」に含まれていると思う。内容はすべてバリアフリーのことを言うので、誤解が生じないように、見出しを変更しておくとうい。

5 子供の読書活動

(中井孝幸 委員)

- ・構想全体で言えることだが、「子供」と「子ども」の表記をどう考えているか。

(事務局)

- ・行政文書だと「子供」となる。以前は総務省なども「子ども」を使用していたが、「子供」の表記で通達していたと思う。ただし、法令等は改正されていないので「子ども」のままであるし、子ども家庭庁の法令や計画は「こども」と平仮名表記になっている。
- ・基本的に「子供」に統一し、法令や計画はそれに合わせているが、表記ゆれが生じていないか一度確認する。

第8章 図書館のあり方についての市民ニーズの把握

第2節 調査結果の概要

4 中学生アンケート

(平野小月 委員)

- ・常滑中学校の回答率がとても少ない。こども図書室ができた学区なのに、中学校のクラスにも満たない回答で、まるで小学校までの読書活動が繋がっていないように見えて、とても寂しく思う。

(久田博司 委員)

- ・学校やクラスによって、アプローチの仕方が違うのだと思うが、こういったアンケートは実態を把握するうえで重要なので、次回こういった機会がある際は、みんなが回答できるよう、学校内での周知・協力要請を徹底してもらいたい。

(土方宗広 副委員長)

- ・アプローチの仕方が悪かったと思う。鬼崎中学校や南陵中学校は朝や授業後などで時間をとってみんなで回答したのではないかな。次回機会がある際は、徹底したい。

(土方宗広 副委員長)

- ・アンケートの中で気になった点として、「普段の勉強時間」はもう少しあるのではないかな。学習塾に通っている生徒は7割近いと報告を

受けているので、塾以外での自宅での勉強時間を回答しているのではないか。

- ・「どこで勉強できると良いか」という設問の中で、確かに6割は自宅と回答しているが、4割が自宅以外と回答している点は、アンケートの回答率の大小だけでは判断していただきたくない。家庭の事情や兄弟の関係など4割の生徒が自宅では勉強できないと感じているのを、常滑市教育委員会として考えていかなければならない。

(中井孝幸 委員)

- ・先日、日進市の体育館の調査をしたとき、体育館のロビーで勉強している生徒が多くて驚いた。話を聞いてみると図書館の休館日に体育館で勉強しているとのことで、場所を探して公共施設を回っている生徒は絶対いるので、ぜひ考えてもらいたい。

(中井孝幸 委員)

- ・アンケート結果をどう捉えるかは、どのアンケート調査でも非常に難しい。先日行った調査で、ノートパソコンの貸出について聞いたが、貸出を行って恩恵を享受している図書館と、貸出を行っていない図書館では、回答が全く異なった。今受けているサービスからしか要求が出てこないということもあるので、結果の数字だけでなく、回答した背景もよく捉えてほしい。

(中井孝幸 委員)

- ・学校図書館を使っている子は公共図書館を使っていることが多く、相関性が高い。
- ・公共施設とあるが、常滑市の子はどこで勉強しているのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・公民館のロビーであったり、公民館や市役所の会議室を開放していることもある。常滑高校の生徒などは、すぐ隣の体育館のロビーで集まって勉強している。

(4) 第3回・第4回市民ワークショップについて

- ・先行事例の視察について、赤尾恵子委員より説明
- ・第3回、第4回ワークショップについて、久田博司委員より説明

(赤尾恵子 委員)

- ・小牧市中央図書館がまさに夢の図書館と感じたが、江南市立図書館や富津市立図書館など条件が異なる図書館も視察して、それぞれの図書館がどのように市民にサービスを提供するか考えた結果で、今の図書館になっているのが良く分かった。

- ・富津市のイオンモールが土曜日なのに閑古鳥となっていて、広い駐車場も寂しく、常滑市の将来がこうならないことを祈った。
- ・ワークショップを通じて、メンバーの方の考え方が変わってきていると感じているが、やはり良い図書館であるためには、図書館の運営や協力するボランティア、一緒に企画などに携わる人のエネルギー次第だと感じた。

(久田博司 委員)

- ・回を重ねるごとに、メンバーの方から現実的な意見が多くなってきたように感じている。
- ・財政の状況だったり、常滑市の状況から現実的なことを考えるのももちろん大事なことはあるが、これまでにたくさん出た新しい図書館への思いや希望を、どう実現可能な形にしていくかが、今後の図書館のあり方を考える上では、非常に大切だと思う。

(井村美里 委員)

- ・第1回と第2回は夢を語る回だった。メンバーの方も視察をして視野が広がり、色々な情報を勉強したうえで、今の意見がある。
- ・やってほしいと要望するだけでなく、自分事としてとらえるメンバーが増えて、本当の意味での図書館ファンが出てきたのではないだろうか。
- ・図書館の整備となるとハード面を気にしがちではあるが、メンバーの方からは、整備後の話がたくさん出るようになっていたので、視察でたくさんのことを勉強してきてくれたのだと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・富津市立図書館のイオンの館内放送はどうだったか。

(赤尾恵子 委員)

- ・18時になるとロッキーのテーマが流れるそうだが、図書館にはふさわしくないとと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・商業施設特有の賑やかさというのは気になったか。

(赤尾恵子 委員)

- ・イオンモールの施設の端の方にあり、ガラスの壁で囲われていたの
で気にならなかった。

(山田朝夫 委員長)

- ・小牧市中央図書館や安城市図書情報館は吹き抜けで、割とにぎやかだが実際に使っている人は気にならないと聞く。音についてはどうか。

(中井孝幸 委員)

- ・研究をしている側からしても、図書館内の音については非常に難しい。賑やかさなど自然発生的な音やカウンター業務の声は苦情はないが、逆にバックミュージックでクラシック音楽を流したり、マスキングで自然の音を流すと苦情が出たりする。
- ・安城市図書館などは、なぜこの図書館を利用するかと尋ねると賑やかさや解放感などを回答する人も多い。
- ・以前は本が焼けたりなど吹き抜けには否定的な意見が多かったが、最近では肯定的となっている。

(5) 課題の整理について

(山田朝夫 委員長)

- ・第9章については、次回に持ち越すこととする。

4 閉 会

- ・次回の委員会は10月20日(月)午後2時開催
- ・会場は、常滑市役所1階 会議室Fの予定